

進捗点検こそ地域住民の手で

リバープロジェクト 木村 俊二郎

進捗点検の審議時間が非常に短く十分でなかったことは理解していますが、進捗点検の進め方がまだまだ未完成であると思われるので「進捗点検のあり方について」意見を述べておきます。

進捗点検は距離だけでなく意識的にも現地に極めて近い人たちによって行われるべきものであることは今更論を待たないと思います。今回の進捗点検は河川管理者のみによって行われ、もう一方の当事者である地域の住民は全く埒外に置かれました。これでは十分な進捗点検が行われたとは言い難いものであることはお判りいただけると思います。

進捗点検の実施方法は下記のようにするべきであると考えます。

委員会では進捗点検モデルを作成し、地域の人にとっても判り易い点検シートを作成、委員各位の点検例とあわせて公開する。

このシートに従って河川管理者ならびにもう一方の当事者である地域の人たちも点検してそのシートを提出する。

提出されたシートをまとめ委員会で審議する。その際には点検結果審議以外にも点検方法の再検討等を行い更に優れた点検方法を策定し点検を行う。

以上のような方法を採用することによって、地域の人たちと一体となった河川整備が進められることになると考えられます。